

22歳のガールストーク

願うのは、等身大のしあわせ。 今どきの女子たちは、 地に足のついた夢を見る。



※大学生男子の声は、
県内大学生 男子6名
の意見に基づいています。

「こじんまりまとまっている」「欲がない」「おとなしい」。
大人はあれこれ言うけれど、
22歳には22歳ならではの夢や希望がある。
未だ過去の成功神話を捨てきれない親世代を尻目に、
実現可能な範囲で夢を描き、軽やかに、堅実に。
22歳女子たちの本音トークの中に、
これからの男女が共に生きやすい時代の扉を開く、
鍵が隠されているのかもしれない。



なお、今回は女子のコメントへのアンサーコメントとして、
男子大学生からのひとつも添えています。

やっぱり大事なことだと思う。
大変だろうけど。

辻 私は教員を目指しています。教員採用試験は、ほぼ大学受験と一緒に。学科試験や一般教養などを勉強して試験に臨むので、他の学部の就活とはかなり違うと思います。今はひたすら勉強の毎日ですね。
梶山 そもそも「教員になろう」と思ったきっかけは？
辻 やっぱ「子どもが好き」というのが一番ですね。この数年、キャンプカウンセラーをしているのですが、そのキャンプでは通常学級の子、障がいをもつ子、不登校の子などさまざまな子どもたちと触れ合うことができます。一人ひとりと触れ合ううちに、教師になりたいという夢がいつそう具体的に現れてきました。

平尾 私の場合は、就活を始めてしばらくして「若いうちから責任ある仕事をしたい」と思うように。その頃からベンチャー企業や中小企業を中心に受けました。最終的には、入社直後から仕事をほとんど任せてくれそうな会社を選びました。
梶山 みなさん、就活中に悩んだことはなかったですか？
寺島 なかなか内定がもらえなくて辛かったです、正直に言うと。就活を始めるとき、先輩から「就活って縁だから、落ちてもガツカリしないでね」とよく言われましたけれど、実際に何度か採用だと「縁何だよ！」なんて投げやりになったこともありました(笑)。でも、内定した企業の最終面接で話がとても弾み、「これが縁かも」と実感。今は先輩の言葉が身に染みんでいます。

進路を決める過程で、
改めて自分のやりたい
ことを考えた。

梶山 まずは、来春からの進路について聞きたいと思います。どのようにして進路を決めましたか？
寺島 理系なので、1年生の頃は大学院進学も考えていました。でもアルバイトで社会とつながりを持つようになって、「早く社会に出て働きたい」と思い、就職を考えました。就活の初期は、理系に有利と言われる食品関係や化粧品関係を受けていましたが、「自分の求めているものちょっと違うな」と思うことが多くて。それに、東京と静岡、両方で活動して疲れてしまったんです。立ち止まって考えた時、「ずっと暮らしてきた静岡がやっぱり好きだ」と実感。まちづくりに貢献している地元企業を受け、内定をいただきました。

僕は、何となく「長男」というプレッシャーを感じています(笑)。

■司会 ねっとわあく編集部

平尾夏生さん
HIRAO NATSUKI
(静岡県立大学 国際関係学部4年生)

梶山雄紀さん
KAJIYAMA YUKI
(静岡大学人文社会科学部 法学科4年生)

辻有紀子さん(22歳)
TSUJI YUKIKO
福岡市出身。
常葉学園大学教育学部
数学専攻4年生。
教員採用試験受験中。

若月百合子さん(22歳)
WAKATSUKI YURIKO
富士宮市出身。
静岡大学理学部
生物学科4年生。
来年は大学院に進学予定。

寺島詩織さん(22歳)
TERASHIMA SHIORI
静岡市出身。
静岡大学理学部
生物学科4年生。
県内企業に総合職として内定。

参加者プロフィール

平成2年生まれの22年！

1990 誕生! 0歳 東西ドイツ統一 平成天皇即位の礼
スーパーファミコンブーム

1992 2歳 育児休業法施行 ジュリアナブーム
この頃から携帯電話普及

1995 5歳 阪神淡路大震災 オウム事件
Windows95 発売

1997 7歳 介護保険法成立
ポケモンブーム

1999 9歳 欧州ユーロ導入
改正男女雇用機会均等法施行

2000 10歳 労働者派遣法改正
この頃から派遣社員増加

2001 11歳 アメリカ 9.11 同時多発テロ
この頃から携帯メール普及

2002 12歳 サッカー W 杯日韓共同開催
公立小中学校完全週5日制に

2005 15歳 日本の人口、戦後初めて減少

2008 18歳 リーマンショック
ワーク・ライフ・バランス憲章策定

2011 21歳 東日本大震災
「草食男子・肉食女子」ブーム

2012 22歳 東京スカイツリー完成
スマートフォン、SNS 普及



同感。
僕がカギっ子だったので、
自分の子どもとはできるだけ
一緒に居てあげたい。

うちの親も本音を
地味に聞いてくるなあ。

されませんでしたね。でも、就活の時期になって母に初めて「戻ってこないの？」と聞かれ、驚きました。地元の採用試験の願書を母が持ってきたので、一応受けようかなと思っていました。もちろん、第一志望は静岡県ですけれど。平尾 お母さんが願書を持ってきたときにはどう思いましたか。辻 かなりびっくりしました。そして少し悩みましたね。初めて親の希望を聞いたので。本当は戻ってきてほしいのかな。でも、自分としては静岡にいたいんです。

会社である程度経験を積んだら、独立してマイペースで働きたい。

梶山 次に、将来の希望について考えてみたいと思います。平尾 私の就職先はフィットネスクラブ。ゆくゆくは店長、マネージャーとなってお店を束ねていく仕事です。ここでみっちり経営のスキルを覚えて、将来的には独立したいなと思っています。起業とまではいなくても、自分のお店を持つたりしたいな。結婚は具体的には考えていませんが、子どもができれば、なるべく子どものそばにいたいと思います。自分の

がつつりじゃなくて、
そういうのもいいなあーと
最近思います。

辻 教師の仕事は、自分の子どもができる幅が広がるんじゃないかなって思うので、出産後も続けたいです。40代後半くらいで辞めて、その後は個人の塾を作りたいと考えています。今、塾講師のバイトをしているのですが、もう少し、のんびり子どもと向き合って勉強を教えたいと思うので。特に、フリースクールに興味があります。不登校の子をサポートする仕事がしたいです。

理想のパートナーは、「尊敬できて、家事を手伝ってくれる人」。

寺島 みなさん、かなり具体的に考えていますね。私は、就職が決まったばかりでその先のことはあまり考えていません。結婚は、30歳くらいでしたいかな。

梶山 結婚したら、仕事はどうしますか？

寺島 うーん、夫の収入次第ですかね(笑)。自分にとってやりがいがある仕事なら、結婚しても続けるとは思います。今のところ、辞める気はないです。

梶山 自分の親世代とは違い、今は男性だけの稼ぎではなかなか難しい時代です。僕自身、自分が稼い



お店が仕事先なら一緒にいられる時間も多だろうし、そういう意味でも自分のペースで働きたいという理想があります。でも、まずは頑張っってしっかり仕事を覚えなくては。早く、夢が実現できたらいいなと思っています。

若月 私の場合、大学院を卒業するのが2年後。みんなより2年遅れで社会に出ます。それから仕事を覚えて成果を出して…。その後のことは、今は考えられない。一番就きたいのは企業の研究、開発チームです。仕事はおそらく忙しいでしょう。結婚したら、夫の生活に合わせることも考えつつ、ずっと働き続けたいと思っています。

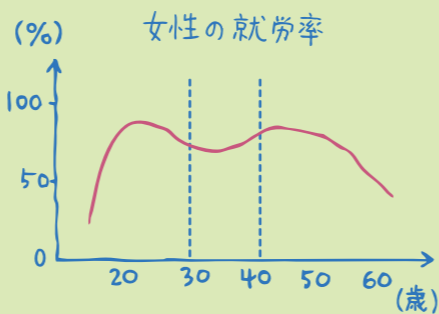
平尾 研究職として偉業をなしたい、とかありますか？

若月 ノーベル賞とまでは言わないけれど(笑)、自分の研究は成果として論文として残したいと思っています。企業で働きながら、研究を続けるのが夢です。

うーん、結婚はその時の状況次第かな。



■育児・介護休業法
育児・介護を行う労働者の仕事と家庭生活との両立を支援することを目的として、平成3年に制定・施行された法律。男女問わず、子が1歳に達するまでの期間は育児休業をとることができ、「育児休業給付金」が支給される(育児休業制度)。また、3歳未満の子を養育している場合、勤務時間の短縮やフレックスタイム制の導入、始業・就業時刻の繰上げ繰下げ等を事業主に申請できる(育児時短制度)。



■女性のM字型曲線
女性の就労率が20代後半から30代にかけて下がり、グラフにするとM字型の曲線を描くこと。結婚や出産・育児をきっかけに退職する人が多いためで、40代になると再び就労率は上がる。なお、各国を比較するとこのような曲線を描く国は日本と韓国くらいで特徴的。他の先進国にはみられない現象である。

■ワーク・ライフ・バランス
国民一人ひとりが仕事と生活の調和を実現するために、政府、自治体、企業等が一体となって進める取り組み。これが実現された社会は、①就労による経済的自立が可能な社会、②健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会、③多様な生き方・働き方が選択できる社会、と考えられている。

■男女共同参画
男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、また、その機会が確保されることにより、男女が均等に政治的、経済的、社会的、及び文化的利益を享受し、共に責任を担うことをいう。

※在宅ワークとかノマドとか、多様な働き方がメジャーになるといいのでは。そういう生き方が認められる世の中になってほしい。

※ノマド：遊牧民の意味。企業に所属せず、場所や時間を選ばない自由なワークスタイルを指し、若い世代に注目されている。

就活では元気な女の子たちに圧倒されました(笑)。

将来のことを具体的に考えている女子は凄と思う。女子の方が先をしっかり見据えているのかな。

制度の問題だけじゃないと思う。考え方とか社会の通念とか。



女の人が仕事で認められるだけではなく、男の人ももう少し息抜きできる社会になるといいな。

焦りはしないけど、もうそんな歳か…とは思うね。

男だから、女だから、ではなく個人の長所を伸ばせる時代にした

梶山 僕たちの世代が生きやすい世の中にするためには、社会をどう変えていったらいいと思いますか。

寺島 子育てとキャリアアップ、どちらかしか選べないという現状をなんとか変えたい。今のままで

若月 同感です。男だからとか女だからという視点ではなく、個人の能力や長所を重視して、その人

なんか凄い発想だ!

辻 同級生の中には、すでに子どもが2人いる友人も。ちょっと焦ります(笑)。

若月 高齢出産は、正直なところ怖いです。既に子どもがいる同世代の友人を見ると、「まだ学生をやっているのかなあ」と思うこともあります。でも、私の将来設計の中では、出産はある程度仕事で認められてからのこと。堂々と産休、育休をとれる立場になるまではお預けですね。

寺島 まずは仕事を覚えて、結婚して…。歳はとるけれど、その頃には不妊治療も進んで高齢出産でも大丈夫かもしれないしね(笑)。

平尾 就活を通して、年配の男性の多くが、「総合職は男子、一般職は女子」という価値観を今なお持っていることを実感しました。上の世代の人たちは、若者の意見にも耳を傾けて、性差にこだわらず、個人のいいところを引き出してほしいです。

男も育児休暇がとりやすくなるといいな。

確かにそうだけど、育児休暇をとって社内での立場が不利になるのが怖い。

座談会を終えて

●学校や専攻の違う大学4年生の集まりでしたが、いろいろな価値観があって、自分を見つめ直すいい機会になりました。同じ世代だからこそ共感できる部分も多くありました。横の世代がつながって団結していくことも必要だなと思いました。(梶山)

●同じ世代の女の子がどのようなことを考えているのかを聞くことができ、勉強になりました。みなさんのそれぞれの夢も、すごく興味深かったです。将来が楽しみになりました。ありがとうございました。(平尾)

自分が主夫というのは、ちょっとイメージできないなあ。

そうなれたらいい。そうなりたい!

お互いに気遣いが大事なんじゃない?

寺島 夫が専業主夫になるということは、自分が定年までキャリア

女性のキャリアアップ、年収アップが難しいのは、家事育児の負担が大きすぎるから。

平尾 私は、自分より収入が少なくてもいいし、男性が専業主夫になるのにも、あんまり抵抗はないです。ふたりで家庭を作っていけばそれでいいと思います。

若月 私の仕事を理解してくれて、子どもをちゃんと導いてくれる人がいいな。

寺島 男性は、平日は仕事で大変だろうから休日に手伝ってくれるとうれしいです。自分の体調が悪いときにちょっと手伝ってくれる感じが…。気づいてくれる優しさ

アップして年収を稼いでいかなくはないけど、それが自分にできる個人的には、それが自分にできる不安だな…。それと、漠然とですが、子どもにとってお母さんの存在が大事だと思うので、自分が仕事を続けるとしても、夕食のときには家にいてあげたいと思います。



平尾 女性の場合、男性よりも収入が少なく昇進や昇給も難しくそうだから、女性がひとりですと家族を支えていくのは経済的に難しい。男性の方が稼げるから外で働く。現状で専業主夫がほとんどいないのは、それが大きな原因だと思っています。

共働きなら、奥さんに無理はしてほしくないなあ。

僕が帰宅した時も、奥さんに出迎えてもらいたいです。



辻 女性が管理職になりづらいのは、単に「女性だから」じゃなくて、家事育児の大部分を負担している、仕事に全力を注げないからだと思います。男性でも、シングル

平尾 なるほど。性差というより、女性に多くの負担がかかっているというところが問題なのかもしれないですね。家事育児の話から、子どもを産む時期や年齢と仕事の兼ね合いについては、どう考えますか。

ファーマーで家事育児を負担している人は同じことが言えるのは。仕事も家事育児も、男女が公平に分担すれば、女性も認められやすくなるのでは?

■専業主夫 賃労働に携わらず、家庭内において専門的に家事・育児を担当する男性のこと。2005年の国勢調査では、全国に約2万1千人いるとされ、家事のほか仕事もしている兼業主夫も合わせると5万人以上が主夫である。

■高年(高齢)出産 医学上、35歳以上の出産を「高年出産」、35歳以上で初めて出産する場合を「高年初産」という。年齢が高くなるにつれ流産しやすくなったり、妊娠高血圧症候群(以前は妊娠中毒症と呼ばれていた)が発症しやすくなったりする。また、ダウン症候群や先天性代謝異常の赤ちゃんが産まれるリスクも高いといわれている。

■不妊治療 高齢・体質等の理由で自然妊娠が困難な場合に行われる治療のこと。治療には大きく分けて3ステップ(タイミング法・排卵誘発法など)人工授精・体外受精・顕微授精)がある。静岡県では、体外受精と顕微授精に要する費用の一部を助成しているほか、専門相談センターも設置。なお不妊の原因は男女両方にあるといわれている一方、男性不妊については十分な情報が少ないためにまだまだ「不妊は女性の責任」と考えられている傾向がある。